

国

語

(60分)

試験開始の合図があるまで、この問題冊子を開かず、
左記の注意事項をよく読むこと。

注意事項

- 1、問題冊子は、20ページまであります。
- 2、解答用紙は問題冊子の中央にはさんでいます。解答はすべて、解答用紙に書き込みなさい。
- 3、始め、の合図でページ数を確認し、受験番号・名前を書きなさい。
- 4、問題の内容についての質問には、いっさい応じません。印刷のはっきりしないところがあれば、静かに手をあげなさい。
- 5、時間を知りたいときも、静かに手をあげなさい。
- 6、具合が悪くなったり、トイレに行きたいときは、手をあげて監督の先生の指示に従って行動しなさい。
- 7、問題冊子は、各自持ち帰ってよろしい。

① 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。なお、字数制限のある問いは、記号や句読点も字数として数えます。

私たちには、「〇〇のために生きている」といったわかりやすい使命や目的はありません。私たち人間を**含む**すべての生命は物理現象です。増えて遺伝するものが出現すると自動的に起こる現象です。物質が重力によって下に落ちることに目的や使命がないのと同じように、私たち増えて遺伝するものの存在にも目的や使命はありません。

だとすると、何を目指して生きていけばよいのでしょうか。目的も使命もなく生きるなんて絶望的だと思う人がいるかもしれません。この問題への対処法として、私の考えを2つ述べたいと思います。

① 結局のところ、人間が生きるのに目的や使命が欲しいというのは、人間に過度に期待しすぎているのだと思います。

* ダーウインがいわゆる「進化論」を提唱した際にも同じような問題が起きています。ダーウインの提唱した「種の起源」は、人間が神によってつくられたものではなく、サルと共通祖先から進化したことを意味していました。それまで人間とは神が自らに似せて創られたもので、使命を帯びて生まれてきたとする当時の考え方に反します。おそらく、当時の人にとってダーウインの説は受け入れがたく、絶望を伴うものだったでしょう。しかし、現代の人間から見れば、そもそもそんな使命があると信じていたのが不思議に思われます。そんな使命はなくても楽しく生きていけます。むしろない方が自由です。要するに、人間という存在に対して「神の子孫」だと過大評価をしていたということだと思います。そんなたいそうなものだと思わなくても、サルの親戚しんせきだとしても、人間として楽しく生きていくのに支障はありません。

人間が物理現象のひとつだとするのも同じことです。イヌやネコや植物は自分の由来がどうだろうと、人生に目的があるろうとなかろうとそこそこ楽しく生きているように見えます。人間だって同じです。たとえば私が「生きていることに目的なんてないですよ」といったところで、特に生きていることの楽しさが失われたわけでも、死んだ方がましになるわけでもないでしょう。

② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿ ㏀ ㏁ ㏂ ㏃ ㏄ ㏅ ㏆ ㏇ ㏈ ㏉ ㏊ ㏋ ㏌ ㏍ ㏎ ㏏ ㏐ ㏑ ㏒ ㏓ ㏔ ㏕ ㏖ ㏗ ㏘ ㏙ ㏚ ㏛ ㏜ ㏝ ㏞ ㏟ ㏠ ㏡ ㏢ ㏣ ㏤ ㏥ ㏦ ㏧ ㏨ ㏩ ㏪ ㏫ ㏬ ㏭ ㏮ ㏯ ㏰ ㏱ ㏲ ㏳ ㏴ ㏵ ㏶ ㏷ ㏸ ㏹ ㏺ ㏻ ㏼ ㏽ ㏾ ㏿ 㐀 㐁 㐂 㐃 㐄 㐅 㐆 㐇 㐈 㐉 㐊 㐋 㐌 㐍 㐎 㐏 㐐 㐑 㐒 㐓 㐔 㐕 㐖 㐗 㐘 㐙 㐚 㐛 㐜 㐝 㐞 㐟 㐠 㐡 㐢 㐣 㐤 㐥 㐦 㐧 㐨 㐩 㐪 㐫 㐬 㐭 㐮 㐯 㐰 㐱 㐲 㐳 㐴 㐵 㐶 㐷 㐸 㐹 㐺 㐻 㐼 㐽 㐾 㐿 㑀 㑁 㑂 㑃 㑄 㑅 㑆 㑇 㑈 㑉 㑊 㑋 㑌 㑍 㑎 㑏 㑐 㑑 㑒 㑓 㑔 㑕 㑖 㑗 㑘 㑙 㑚 㑛 㑜 㑝 㑞 㑟 㑠 㑡 㑢 㑣 㑤 㑥 㑦 㑧 㑨 㑩 㑪 㑫 㑬 㑭 㑮 㑯 㑰 㑱 㑲 㑳 㑴 㑵 㑶 㑷 㑸 㑹 㑺 㑻 㑼 㑽 㑾 㑿 㒀 㒁 㒂 㒃 㒄 㒅 㒆 㒇 㒈 㒉 㒊 㒋 㒌 㒍 㒎 㒏 㒐 㒑 㒒 㒓 㒔 㒕 㒖 㒗 㒘 㒙 㒚 㒛 㒜 㒝 㒞 㒟 㒠 㒡 㒢 㒣 㒤 㒥 㒦 㒧 㒨 㒩 㒪 㒫 㒬 㒭 㒮 㒯 㒰 㒱 㒲 㒳 㒴 㒵 㒶 㒷 㒸 㒹 㒺 㒻 㒼 㒽 㒾 㒿 㓀 㓁 㓂 㓃 㓄 㓅 㓆 㓇 㓈 㓉 㓊 㓋 㓌 㓍 㓎 㓏 㓐 㓑 㓒 㓓 㓔 㓕 㓖 㓗 㓘 㓙 㓚 㓛 㓜 㓝 㓞 㓟 㓠 㓡 㓢 㓣 㓤 㓥 㓦 㓧 㓨 㓩 㓪 㓫 㓬 㓭 㓮 㓯 㓰 㓱 㓲 㓳 㓴 㓵 㓶 㓷 㓸 㓹 㓺 㓻 㓼 㓽 㓾 㓿 㔀 㔁 㔂 㔃 㔄 㔅 㔆 㔇 㔈 㔉 㔊 㔋 㔌 㔍 㔎 㔏 㔐 㔑 㔒 㔓 㔔 㔕 㔖 㔗 㔘 㔙 㔚 㔛 㔜 㔝 㔞 㔟 㔠 㔡 㔢 㔣 㔤 㔥 㔦 㔧 㔨 㔩 㔪 㔫 㔬 㔭 㔮 㔯 㔰 㔱 㔲 㔳 㔴 㔵 㔶 㔷 㔸 㔹 㔺 㔻 㔼 㔽 㔾 㔿 㕀 㕁 㕂 㕃 㕄 㕅 㕆 㕇 㕈 㕉 㕊 㕋 㕌 㕍 㕎 㕏 㕐 㕑 㕒 㕓 㕔 㕕 㕖 㕗 㕘 㕙 㕚 㕛 㕜 㕝 㕞 㕟 㕠 㕡 㕢 㕣 㕤 㕥 㕦 㕧 㕨 㕩 㕪 㕫 㕬 㕭 㕮 㕯 㕰 㕱 㕲 㕳 㕴 㕵 㕶 㕷 㕸 㕹 㕺 㕻 㕼 㕽 㕾 㕿 㖀 㖁 㖂 㖃 㖄 㖅 㖆 㖇 㖈 㖉 㖊 㖋 㖌 㖍 㖎 㖏 㖐 㖑 㖒 㖓 㖔 㖕 㖖 㖗 㖘 㖙 㖚 㖛 㖜 㖝 㖞 㖟 㖠 㖡 㖢 㖣 㖤 㖥 㖦 㖧 㖨 㖩 㖪 㖫 㖬 㖭 㖮 㖯 㖰 㖱 㖲 㖳 㖴 㖵 㖶 㖷 㖸 㖹 㖺 㖻 㖼 㖽 㖾 㖿 㗀 㗁 㗂 㗃 㗄 㗅 㗆 㗇 㗈 㗉 㗊 㗋 㗌 㗍 㗎 㗏 㗐 㗑 㗒 㗓 㗔 㗕 㗖 㗗 㗘 㗙 㗚 㗛 㗜 㗝 㗞 㗟 㗠 㗡 㗢 㗣 㗤 㗥 㗦 㗧 㗨 㗩 㗪 㗫 㗬 㗭 㗮 㗯 㗰 㗱 㗲 㗳 㗴 㗵 㗶 㗷 㗸 㗹 㗺 㗻 㗼 㗽 㗾 㗿 㘀 㘁 㘂 㘃 㘄 㘅 㘆 㘇 㘈 㘉 㘊 㘋 㘌 㘍 㘎 㘏 㘐 㘑 㘒 㘓 㘔 㘕 㘖 㘗 㘘 㘙 㘚 㘛 㘜 㘝 㘞 㘟 㘠 㘡 㘢 㘣 㘤 㘥 㘦 㘧 㘨 㘩 㘪 㘫 㘬 㘭 㘮 㘯 㘰 㘱 㘲 㘳 㘴 㘵 㘶 㘷 㘸 㘹 㘺 㘻 㘼 㘽 㘾 㘿 㙀 㙁 㙂 㙃 㙄 㙅 㙆 㙇 㙈 㙉 㙊 㙋 㙌 㙍 㙎 㙏 㙐 㙑 㙒 㙓 㙔 㙕 㙖 㙗 㙘 㙙 㙚 㙛 㙜 㙝 㙞 㙟 㙠 㙡 㙢 㙣 㙤 㙥 㙦 㙧 㙨 㙩 㙪 㙫 㙬 㙭 㙮 㙯 㙰 㙱 㙲 㙳 㙴 㙵 㙶 㙷 㙸 㙹 㙺 㙻 㙼 㙽 㙾 㙿 㚀 㚁 㚂 㚃 㚄 㚅 㚆 㚇 㚈 㚉 㚊 㚋 㚌 㚍 㚎 㚏 㚐 㚑 㚒 㚓 㚔 㚕 㚖 㚗 㚘 㚙 㚚 㚛 㚜 㚝 㚞 㚟 㚠 㚡 㚢 㚣 㚤 㚥 㚦 㚧 㚨 㚩 㚪 㚫 㚬 㚭 㚮 㚯 㚰 㚱 㚲 㚳 㚴 㚵 㚶 㚷 㚸 㚹 㚺 㚻 㚼 㚽 㚾 㚿 㜀 㜁 㜂 㜃 㜄 㜅 㜆 㜇 㜈 㜉 㜊 㜋 㜌 㜍 㜎 㜏 㜐 㜑 㜒 㜓 㜔 㜕 㜖 㜗 㜘 㜙 㜚 㜛 㜜 㜝 㜞 㜟 㜠 㜡 㜢 㜣 㜤 㜥 㜦 㜧 㜨 㜩 㜪 㜫 㜬 㜭 㜮 㜯 㜰 㜱 㜲 㜳 㜴 㜵 㜶 㜷 㜸 㜹 㜺 㜻 㜼 㜽 㜾 㜿 㝀 㝁 㝂 㝃 㝄 㝅 㝆 㝇 㝈 㝉 㝊 㝋 㝌 㝍 㝎 㝏 㝐 㝑 㝒 㝓 㝔 㝕 㝖 㝗 㝘 㝙 㝚 㝛 㝜 㝝 㝞 㝟 㝠 㝡 㝢 㝣 㝤 㝥 㝦 㝧 㝨 㝩 㝪 㝫 㝬 㝭 㝮 㝯 㝰 㝱 㝲 㝳 㝴 㝵 㝶 㝷 㝸 㝹 㝺 㝻 㝼 㝽 㝾 㝿 㞀 㞁 㞂 㞃 㞄 㞅 㞆 㞇 㞈 㞉 㞊 㞋 㞌 㞍 㞎 㞏 㞐 㞑 㞒 㞓 㞔 㞕 㞖 㞗 㞘 㞙 㞚 㞛 㞜 㞝 㞞 㞟 㞠 㞡 㞢 㞣 㞤 㞥 㞦 㞧 㞨 㞩 㞪 㞫 㞬 㞭 㞮 㞯 㞰 㞱 㞲 㞳 㞴 㞵 㞶 㞷 㞸 㞹 㞺 㞻 㞼 㞽 㞾 㞿 㟀 㟁 㟂 㟃 㟄 㟅 㟆 㟇 㟈 㟉 㟊 㟋 㟌 㟍 㟎 㟏 㟐 㟑 㟒 㟓 㟔 㟕 㟖 㟗 㟘 㟙 㟚 㟛 㟜 㟝 㟞 㟟 㟠 㟡 㟢 㟣 㟤 㟥 㟦 㟧 㟨 㟩 㟪 㟫 㟬 㟭 㟮 㟯 㟰 㟱 㟲 㟳 㟴 㟵 㟶 㟷 㟸 㟹 㟺 㟻 㟼 㟽 㟾 㟿 㠀 㠁 㠂 㠃 㠄 㠅 㠆 㠇 㠈 㠉 㠊 㠋 㠌 㠍 㠎 㠏 㠐 㠑 㠒 㠓 㠔 㠕 㠖 㠗 㠘 㠙 㠚 㠛 㠜 㠝 㠞 㠟 㠠 㠡 㠢 㠣 㠤 㠥 㠦 㠧 㠨 㠩 㠪 㠫 㠬 㠭 㠮 㠯 㠰 㠱 㠲 㠳 㠴 㠵 㠶 㠷 㠸 㠹 㠺 㠻 㠼 㠽 㠾 㠿 㡀 㡁 㡂 㡃 㡄 㡅 㡆 㡇 㡈 㡉 㡊 㡋 㡌 㡍 㡎 㡏 㡐 㡑 㡒 㡓 㡔 㡕 㡖 㡗 㡘 㡙 㡚 㡛 㡜 㡝 㡞 㡟 㡠 㡡 㡢 㡣 㡤 㡥 㡦 㡧 㡨 㡩 㡪 㡫 㡬 㡭 㡮 㡯 㡰 㡱 㡲 㡳 㡴 㡵 㡶 㡷 㡸 㡹 㡺 㡻 㡼 㡽 㡾 㡿 㢀 㢁 㢂 㢃 㢄 㢅 㢆 㢇 㢈 㢉 㢊 㢋 㢌 㢍 㢎 㢏 㢐 㢑 㢒 㢓 㢔 㢕 㢖 㢗 㢘 㢙 㢚 㢛 㢜 㢝 㢞 㢟 㢠 㢡 㢢 㢣 㢤 㢥 㢦 㢧 㢨 㢩 㢪 㢫 㢬 㢭 㢮 㢯 㢰 㢱 㢲 㢳 㢴 㢵 㢶 㢷 㢸 㢹 㢺 㢻 㢼 㢽 㢾 㢿 㣀 㣁 㣂 㣃 㣄 㣅 㣆 㣇 㣈 㣉 㣊 㣋 㣌 㣍 㣎 㣏 㣐 㣑 㣒 㣓 㣔 㣕 㣖 㣗 㣘 㣙 㣚 㣛 㣜 㣝 㣞 㣟 㣠 㣡 㣢 㣣 㣤 㣥 㣦 㣧 㣨 㣩 㣪 㣫 㣬 㣭 㣮 㣯 㣰 㣱 㣲 㣳 㣴 㣵 㣶 㣷 㣸 㣹 㣺 㣻 㣼 㣽 㣾 㣿 㤀 㤁 㤂 㤃 㤄 㤅 㤆 㤇 㤈 㤉 㤊 㤋 㤌 㤍 㤎 㤏 㤐 㤑 㤒 㤓 㤔 㤕 㤖 㤗 㤘 㤙 㤚 㤛 㤜 㤝 㤞 㤟 㤠 㤡 㤢 㤣 㤤 㤥 㤦 㤧 㤨 㤩 㤪 㤫 㤬 㤭 㤮 㤯 㤰 㤱 㤲 㤳 㤴 㤵 㤶 㤷 㤸 㤹 㤺 㤻 㤼 㤽 㤾 㤿 㥀 㥁 㥂 㥃 㥄 㥅 㥆 㥇 㥈 㥉 㥊 㥋 㥌 㥍 㥎 㥏 㥐 㥑 㥒 㥓 㥔 㥕 㥖 㥗 㥘 㥙 㥚 㥛 㥜 㥝 㥞 㥟 㥠 㥡 㥢 㥣 㥤 㥥 㥦 㥧 㥨 㥩 㥪 㥫 㥬 㥭 㥮 㥯 㥰 㥱 㥲 㥳 㥴 㥵 㥶 㥷 㥸 㥹 㥺 㥻 㥼 㥽 㥾 㥿 㦀 㦁 㦂 㦃 㦄 㦅 㦆 㦇 㦈 㦉 㦊 㦋 㦌 㦍 㦎 㦏 㦐 㦑 㦒 㦓 㦔 㦕 㦖 㦗 㦘 㦙 㦚 㦛 㦜 㦝 㦞 㦟 㦠 㦡 㦢 㦣 㦤 㦥 㦦 㦧 㦨 㦩 㦪 㦫 㦬 㦭 㦮 㦯 㦰 㦱 㦲 㦳 㦴 㦵 㦶 㦷 㦸 㦹 㦺 㦻 㦼 㦽 㦾 㦿 㧀 㧁 㧂 㧃 㧄 㧅 㧆 㧇 㧈 㧉 㧊 㧋 㧌 㧍 㧎 㧏 㧐 㧑 㧒 㧓 㧔 㧕 㧖 㧗 㧘 㧙 㧚 㧛 㧜 㧝 㧞 㧟 㧠 㧡 㧢 㧣 㧤 㧥 㧦 㧧 㧨 㧩 㧪 㧫 㧬 㧭 㧮 㧯 㧰 㧱 㧲 㧳 㧴 㧵 㧶 㧷 㧸 㧹 㧺 㧻 㧼 㧽 㧾 㧿 㨀 㨁 㨂 㨃 㨄 㨅 㨆 㨇 㨈 㨉 㨊 㨋 㨌 㨍 㨎 㨏 㨐 㨑 㨒 㨓 㨔 㨕 㨖 㨗 㨘 㨙 㨚 㨛 㨜 㨝 㨞 㨟 㨠 㨡 㨢 㨣 㨤 㨥 㨦 㨧 㨨 㨩 㨪 㨫 㨬 㨭 㨮 㨯 㨰 㨱 㨲 㨳 㨴 㨵 㨶 㨷 㨸 㨹 㨺 㨻 㨼 㨽 㨾 㨿 㩀 㩁 㩂 㩃 㩄 㩅 㩆 㩇 㩈 㩉 㩊 㩋 㩌 㩍 㩎 㩏 㩐 㩑 㩒 㩓 㩔 㩕 㩖 㩗 㩘 㩙 㩚 㩛 㩜 㩝 㩞 㩟 㩠 㩡 㩢 㩣 㩤 㩥 㩦 㩧 㩨 㩩 㩪 㩫 㩬 㩭 㩮 㩯 㩰 㩱 㩲 㩳 㩴 㩵 㩶 㩷 㩸 㩹 㩺 㩻 㩼 㩽 㩾 㩿 㪀 㪁 㪂 㪃 㪄 㪅 㪆 㪇 㪈 㪉 㪊 㪋 㪌 㪍 㪎 㪏 㪐 㪑 㪒 㪓 㪔 㪕 㪖 㪗 㪘 㪙 㪚 㪛 㪜 㪝 㪞 㪟 㪠 㪡 㪢 㪣 㪤 㪥 㪦 㪧 㪨 㪩 㪪 㪫 㪬 㪭 㪮 㪯 㪰 㪱 㪲 㪳 㪴 㪵 㪶 㪷 㪸 㪹 㪺 㪻 㪼 㪽 㪾 㪿 㫀 㫁 㫂 㫃 㫄 㫅 㫆 㫇 㫈 㫉 㫊 㫋 㫌 㫍 㫎 㫏 㫐 㫑 㫒 㫓 㫔 㫕 㫖 㫗 㫘 㫙 㫚 㫛 㫜 㫝 㫞 㫟 㫠 㫡 㫢 㫣 㫤 㫥 㫦 㫧 㫨 㫩 㫪 㫫 㫬 㫭 㫮 㫯 㫰 㫱 㫲 㫳 㫴 㫵 㫶 㫷 㫸 㫹 㫺 㫻 㫼 㫽 㫾 㫿 㬀 㬁 㬂 㬃 㬄 㬅 㬆 㬇 㬈 㬉 㬊 㬋 㬌 㬍 㬎 㬏 㬐 㬑 㬒 㬓 㬔 㬕 㬖 㬗 㬘 㬙 㬚 㬛 㬜 㬝 㬞 㬟 㬠 㬡 㬢 㬣 㬤 㬥 㬦 㬧 㬨 㬩 㬪 㬫 㬬 㬭 㬮 㬯 㬰 㬱 㬲 㬳 㬴 㬵 㬶 㬷 㬸 㬹 㬺 㬻 㬼 㬽 㬾 㬿 㭀 㭁 㭂 㭃 㭄 㭅 㭆 㭇 㭈 㭉 㭊 㭋 㭌 㭍 㭎 㭏 㭐 㭑 㭒 㭓 㭔 㭕 㭖 㭗 㭘 㭙 㭚 㭛 㭜 㭝 㭞 㭟 㭠 㭡 㭢 㭣 㭤 㭥 㭦 㭧 㭨 㭩 㭪 㭫 㭬 㭭 㭮 㭯 㭰 㭱 㭲 㭳 㭴 㭵 㭶 㭷 㭸 㭹 㭺 㭻 㭼 㭽 㭾 㭿 㮀 㮁 㮂 㮃 㮄 㮅 㮆 㮇 㮈 㮉 㮊 㮋 㮌 㮍 㮎 㮏 㮐 㮑 㮒 㮓 㮔 㮕 㮖 㮗 㮘 㮙 㮚 㮛 㮜 㮝 㮞 㮟 㮠 㮡 㮢 㮣 㮤 㮥 㮦 㮧 㮨 㮩 㮪 㮫 㮬 㮭 㮮 㮯 㮰 㮱 㮲 㮳 㮴 㮵 㮶 㮷 㮸 㮹 㮺 㮻 㮼 㮽 㮾 㮿 㯀 㯁 㯂 㯃 㯄 㯅 㯆 㯇 㯈 㯉 㯊 㯋 㯌 㯍 㯎 㯏 㯐 㯑 㯒 㯓 㯔 㯕 㯖 㯗 㯘 㯙 㯚 㯛 㯜 㯝 㯞 㯟 㯠 㯡 㯢 㯣 㯤 㯥 㯦 㯧 㯨 㯩 㯪 㯫 㯬 㯭 㯮 㯯 㯰 㯱 㯲 㯳 㯴 㯵 㯶 㯷 㯸 㯹 㯺 㯻 㯼 㯽 㯾 㯿 㰀 㰁 㰂 㰃 㰄 㰅 㰆 㰇 㰈 㰉 㰊 㰋 㰌 㰍 㰎 㰏 㰐 㰑 㰒 㰓 㰔 㰕 㰖 㰗 㰘 㰙 㰚 㰛 㰜 㰝 㰞 㰟 㰠 㰡 㰢 㰣 㰤 㰥 㰦 㰧 㰨 㰩 㰪 㰫 㰬 㰭 㰮 㰯 㰰 㰱 㰲 㰳 㰴 㰵 㰶 㰷 㰸 㰹 㰺 㰻 㰼 㰽 㰾 㰿 㱀 㱁 㱂 㱃 㱄 㱅 㱆 㱇 㱈 㱉 㱊 㱋 㱌 㱍 㱎 㱏 㱐 㱑 㱒 㱓 㱔 㱕 㱖 㱗 㱘 㱙 㱚 㱛 㱜 㱝 㱞 㱟 㱠 㱡 㱢 㱣 㱤 㱥 㱦 㱧 㱨 㱩 㱪 㱫 㱬 㱭 㱮 㱯 㱰 㱱 㱲 㱳 㱴 㱵 㱶 㱷 㱸 㱹 㱺 㱻 㱼 㱽 㱾 㱿 㲀 㲁 㲂 㲃 㲄 㲅 㲆 㲇 㲈 㲉 㲊 㲋 㲌 㲍 㲎 㲏 㲐 㲑 㲒 㲓 㲔 㲕 㲖 㲗 㲘 㲙 㲚 㲛 㲜 㲝 㲞 㲟 㲠 㲡 㲢 㲣 㲤 㲥 㲦 㲧 㲨 㲩 㲪 㲫 㲬 㲭 㲮 㲯 㲰 㲱 㲲 㲳 㲴 㲵 㲶 㲷 㲸 㲹 㲺 㲻 㲼 㲽 㲾 㲿 㳀 㳁 㳂 㳃 㳄 㳅 㳆 㳇 㳈 㳉 㳊 㳋 㳌 㳍 㳎 㳏 㳐 㳑 㳒 㳓 㳔 㳕 㳖 㳗 㳘 㳙 㳚 㳛 㳜 㳝 㳞 㳟 㳠 㳡 㳢 㳣 㳤 㳥 㳦 㳧 㳨 㳩 㳪 㳫 㳬 㳭 㳮 㳯 㳰 㳱 㳲 㳳 㳴 㳵 㳶 㳷 㳸 㳹 㳺 㳻 㳼 㳽 㳾 㳿 㴀 㴁 㴂 㴃 㴄 㴅 㴆 㴇 㴈 㴉 㴊 㴋 㴌 㴍 㴎 㴏 㴐 㴑 㴒 㴓 㴔 㴕 㴖 㴗 㴘 㴙 㴚 㴛 㴜 㴝 㴞 㴟 㴠 㴡 㴢 㴣 㴤 㴥 㴦 㴧 㴨 㴩 㴪 㴫 㴬 㴭 㴮 㴯 㴰 㴱 㴲 㴳 㴴 㴵 㴶 㴷 㴸 㴹 㴺 㴻 㴼 㴽 㴾 㴿 㵀 㵁 㵂 㵃 㵄 㵅 㵆 㵇 㵈 㵉 㵊 㵋 㵌 㵍 㵎 㵏 㵐 㵑 㵒 㵓 㵔 㵕 㵖 㵗 㵘 㵙 㵚 㵛 㵜 㵝 㵞 㵟 㵠 㵡 㵢 㵣 㵤 㵥 㵦 㵧 㵨 㵩 㵪 㵫 㵬 㵭 㵮 㵯 㵰 㵱 㵲 㵳 㵴 㵵 㵶 㵷 㵸 㵹 㵺 㵻 㵼 㵽 㵾 㵿 㶀 㶁 㶂 㶃 㶄 㶅 㶆 㶇 㶈 㶉 㶊 㶋 㶌 㶍 㶎 㶏 㶐 㶑 㶒 㶓 㶔 㶕 㶖 㶗 㶘 㶙 㶚 㶛 㶜 㶝 㶞 㶟 㶠 㶡 㶢 㶣 㶤 㶥 㶦 㶧 㶨 㶩 㶪 㶫 㶬 㶭 㶮 㶯 㶰 㶱 㶲 㶳 㶴 㶵 㶶 㶷 㶸 㶹 㶺 㶻 㶼 㶽 㶾 㶿 㷀 㷁 㷂 㷃 㷄 㷅 㷆 㷇 㷈 㷉 㷊 㷋 㷌 㷍 㷎 㷏 㷐 㷑 㷒 㷓 㷔 㷕 㷖 㷗 㷘 㷙 㷚 㷛 㷜 㷝 㷞 㷟 㷠 㷡 㷢 㷣 㷤 㷥 㷦 㷧 㷨 㷩 㷪 㷫 㷬 㷭 㷮 㷯 㷰 㷱 㷲 㷳 㷴 㷵 㷶 㷷 㷸 㷹 㷺 㷻 㷼 㷽 㷾 㷿 㸀 㸁 㸂 㸃 㸄 㸅 㸆 㸇 㸈 㸉 㸊 㸋 㸌 㸍 㸎 㸏 㸐 㸑 㸒 㸓 㸔 㸕 㸖 㸗 㸘 㸙 㸚 㸛 㸜 㸝 㸞 㸟 㸠 㸡 㸢 㸣 㸤 㸥 㸦 㸧 㸨 㸩 㸪 㸫 㸬 㸭 㸮 㸯 㸰 㸱 㸲 㸳 㸴 㸵 㸶 㸷 㸸 㸹 㸺 㸻 㸼 㸽 㸾 㸿 㹀 㹁 㹂 㹃 㹄 㹅 㹆 㹇 㹈 㹉 㹊 㹋 㹌 㹍 㹎 㹏 㹐 㹑 㹒 㹓 㹔 㹕 㹖 㹗 㹘 㹙 㹚 㹛 㹜 㹝 㹞 㹟 㹠 㹡 㹢 㹣 㹤 㹥 㹦 㹧 㹨 㹩 㹪 㹫 㹬 㹭 㹮 㹯 㹰 㹱 㹲 㹳 㹴 㹵 㹶 㹷 㹸 㹹 㹺 㹻 㹼 㹽 㹾 㹿 㺀 㺁 㺂 㺃 㺄 㺅 㺆 㺇 㺈 㺉 㺊 㺋 㺌 㺍 㺎 㺏 㺐 㺑 㺒 㺓 㺔 㺕 㺖 㺗 㺘 㺙 㺚 㺛 㺜 㺝 㺞 㺟 㺠 㺡 㺢 㺣 㺤 㺥 㺦 㺧 㺨 㺩 㺪 㺫 㺬 㺭 㺮 㺯 㺰 㺱 㺲 㺳 㺴 㺵 㺶 㺷 㺸 㺹 㺺 㺻 㺼 㺽 㺾 㺿 㻀 㻁 㻂 㻃 㻄 㻅 㻆 㻇 㻈 㻉 㻊 㻋 㻌 㻍 㻎 㻏 㻐 㻑 㻒 㻓 㻔 㻕 㻖 㻗 㻘 㻙 㻚 㻛 㻜 㻝 㻞 㻟 㻠 㻡 㻢 㻣 㻤 㻥 㻦 㻧 㻨 㻩 㻪 㻫 㻬 㻭 㻮 㻯 㻰 㻱 㻲 㻳 㻴 㻵 㻶 㻷 㻸 㻹 㻺 㻻 㻼 㻽 㻾 㻿 㼀 㼁 㼂 㼃 㼄 㼅 㼆 㼇 㼈 㼉 㼊 㼋 㼌 㼍 㼎 㼏 㼐 㼑 㼒 㼓 㼔 㼕 㼖 㼗 㼘 㼙 㼚 㼛 㼜 㼝 㼞 㼟 㼠 㼡 㼢 㼣 㼤 㼥 㼦 㼧 㼨 㼩 㼪 㼫 㼬 㼭 㼮 㼯 㼰

て何としても生きのびさせるように仕向けるに決まっています（そうしたほうが少しでも生きのびて子孫を残す確率が高まるからです）。そんな思いはできればしたくないですし、生きているときどき幸せなこともあるので、生きていたほうがだいたぶまします。ただ、こうした死にたくないから生きるというのはちよつと後ろ向きな気もしますので、もう少し前向きな対処法も考えてみたいと思います。

まず、現在直面している問題を整理してみたいと思います。今、問題になっているのは、「人生には目的はなく、だったら生きていく意味や価値がないのではないか」ということです。しかし、これは早計^④です。目的はなくても、私たちの人生には希少価値があります。

⑤ 「希少価値」とは、珍しいものに付随する価値です。たとえば昭和64年に発行された500円硬貨^{こうか}などです。昭和64年は7日間しかなかったので、その間に発行された500円硬貨は希少です。その珍しさのために古銭^とを取り扱^{あつか}う店では500円以上の値がついていたりします。その差額はただこの硬貨が希少であるがために生じた価値です。

希少価値が生まれるためには、少し条件があります。「その希少さを多くの人が認めている」必要があります。たとえば、その辺に落ちている石ころも、実は地球上に全く同じ形や*組成の石ころはないはずで、地球でただひとつのものです。しかし、誰も希少価値があるとはみなしません。それは多くの人のとって、その石と他の石との違い^{ちが}がわからないからです。したがって、その珍しさを理解することができません。他の石と一緒^{いっしょ}でしよ、と思ってしまうわけです。しかし、もし石ころが光っていたりすれば違います。普通の石にそんな特徴^{とくちょう}がないことはわかりやすいので、その希少価値はすぐに認められるでしょう。希少価値が発生するには、珍しさが広く認識される必要があります。

さて、人間が生きている意味に戻ります。私たち人間を含む生物には、目的も使命もありませんが、この宇宙で極めて珍しい存在なのは間違いありません。動物学者のリチャード・ドーキンスも講演でこう述べたと言います「われわれがここにこうして存在しているのは、驚くほどの幸運であり、特権でもあるので、けっしてこの特権をムダにしてはならないのです」。

地球では、過去約38億年間で生物が800万種まで多様化しました。特にこの1万年については、人類という種が急速に増え、巨大な建造物をつくり、惑星外へと飛び出しつつあります。こんな急激な変化が起きている惑星は、広い宇宙でも地球だ

けかもしれない。

宇宙は広いので、もつと生物がいると思われるかもしれませんが、生物が文明を維持できる期間はそんなに長くない可能性
があります。地球上で人類が文明をもち始めてからまだ1万年も経っていません。あと1000年もしないうちに大量破壊兵
器で滅びているかもしれません。もし文明の持続期間が1万年に満たないとすると、広い宇宙とはいえ、現在この瞬間に存
在している生命体は地球だけだという可能性は大いにあり得ます。そうだとしたら、この宇宙で唯一の生命体が今まさに大躍
進をとげているところです。もし全宇宙を支配する神様がいたとすれば、きっと地球の急激な変化にくぎ付けになっているで
しょう。

この珍しさを多くの人が認識すれば（それは難しいことではないでしょう）、そこには希少価値が生まれます。私たちが人類
はこの宇宙で極めて珍しく、それゆえ価値のある存在です。この希少価値のある社会を維持していく、さらには今までなかっ
たもつと珍しい社会に変えていくことには意味があります。私たちがもつ希少価値を大切にしていけることが、私たちが生きる
意味だとみなすことができるかと思えます。

私たちがもつ希少価値を大切にしていけるとは、具体的には何をすればいいのでしょうか。

まず必要なのは、今の人間の社会、文明、技術、知識の水準を維持していくことです。文明が滅びてしまえば、人間もサバ
ンナに暮らすそれほど珍しくもない*類人猿の一種に戻ってしまいます。それではせっかく培ってきた希少価値が台無しで
す。

現在の社会水準を維持するためのひとつの手段は子孫を残すことです。私たちは未だ不 X Y ではありませんの
で、誰かに引き継いでもらわないと人間社会を維持できません。ただ、子孫を残すというのは、他人との協力関係を確立した
人間にとっては、社会を引き継いでいく方法のひとつでしかありません。私たちは多くの人との協力でひとつの社会を作り上
げており、私の命は私と関わるすべての人の命の一部でもあります。私の命の価値は、私を中心にだんだん薄くなりながら広
がっています。社会の中で私が自分の役目を全うすることは、子孫を残すこと以上に人間社会の維持に貢献するでしょう。

つまり、職業、家事、学業、何でもいいですが、社会の中で自分の果たすべき役割を果たすということです。月並みです

が、それがこの希少な人間社会を維持するために個々の人間のすべきことで、それは今を生きる人間にしかできないことです。しかし、ただ現状の社会の維持を目指すだけでは不十分です。現在の人間社会は限りある化石資源に大きく依存いぞんしています。温暖化などの環境問題かんきょうもんじもあります。これら人類が直面する諸問題を解決しなければ、ほどなく今の社会を維持できなくなるのは間違いないありません。

⑦懸念材料けんねんざいりょうはそれだけではありません。人間が今の文化水準を維持できなくなり、最悪滅びる可能性はいくつもあります。致命的な病原体が広まるかもしれません。近年の新型コロナウイルスの出現により、現代社会の*パンデミックに対する耐性たいせいは大きく高まったと思います。しかし、感染症かんせんしょうが起こるのは人間だけではありません。小麦など主要な作物に感染するものが現れるだけで人間社会は大打撃だいたげきをうけるでしょう。しかも、こうした主要作物は栽培効率さいばいこうりつを上げるために多様性のない集団となつていきます。あつという間に病気が広がる可能性があります。

大災害も心配です。過去の地球では、火山活動や隕石いんせきの衝突しょうつなどにより少なくとも5回の大量絶滅ぜつめつが起きています。その大きな原因は火山の噴火ふんかや隕石いんせきによって巻き上げられた粉塵ふんじんが何年もの間太陽光を遮さかったためだと推測されています。真つ暗闇くらやみの世界では植物は育たず、植物を餌えさとする動物も育ちませんので、細菌さいきん以外の生物はほとんど絶滅することになります。このような規模の大量絶滅は、5000万年から1億年に1回の頻度ひんどで起きています。同一規模の大量絶滅が起きれば、私たち人間のほとんどは餓えて死ぬことになるでしょう。

仮に、そのような火山の噴火ふんかも隕石の衝突も起きなかった、あるいは防ぐ方法を見つけ出したとしても、約10億年後には*太陽光度の増加により、地球上の水がすべて蒸発し、地球は生物が住める温度ではなくなると予想されています。それ以上人類社会を存続させるには、他の惑星わくせいなどへ移住をしている必要があります。

つまり私たちは、立ち止まったら遅かれ早かれ滅びる運命にあります。科学技術をさらに発展させ続けていかないと、現状維持もできないでしょう。ただ悲観する必要はありません。今の人間社会は*自転車操業ですが、生命が誕生して以来、すべての生物は結局のところずっと自転車操業を続けてきたのです。そして、自転車の漕ぎ方はどんどんうまくなっています。

人間社会の科学技術を生み出す能力は向上し続けています。近年、人間の人口や教育水準は著しく向上しています。それ

により、科学技術の発展に関わる天才の数も増え続けています。天才と言って有名なのは物理学者のアルバート・アインシュタインでしょう。彼は1900年ごろにチューリヒ連邦工科大学で物理の高等教育を受けています。その後特許庁で働くかわら、*特殊相対性理論を発表し、1905年には博士号を得ています。

彼が物理学の発展に貢献できたのは、生まれつきの才能だけではなく、物理学の高等教育を受けられたからです。どんな天才であっても高等教育を受けなければ科学に貢献することはできません。そもそも科学に貢献しようとも思わないはずですよ。その意味でアインシュタインが物理の教育を受けたことは人類にとって幸運なことでした。おそらく、アインシュタインなみに才能がありながら、高等教育を受ける機会がなかった人は歴史上無数にいます。能力のある人を見出し、高等教育を施すことの重要性がここにありません。

人口の増加とともに、高等教育を受ける人の数は年々増え続けています。アインシュタインの時代の人口は約17億人ほどで、そのなかで博士学位取得者（高等教育を受けた人の数とみなせます）は、年間1000人にも満たなかったと推定されています。しかし今や人口は80億人、博士の学位取得者は年間16万人にも上ります。単純計算ですが、アインシュタインの時代には100年に1人だった天才は、今や毎年のように現れている計算になります。これだけの天才がいれば、不可能に思えるような困難も乗り越える道を見出してくれるような気がします。

このような考え方は*他力本願に思われるかもしれませんが、しかし、今の人間社会はみんなが得意分野で協力しあうことで成り立っているのです、人間にとって他力本願は正しいありません。才能を持った人たちが得意分野で才能を発揮できるようにサポートすることが社会の大きな役割です。そして幸運にもなにかの才能を持っているのであれば、それを発揮するのが個人の役割です。

（市橋伯一『増えるものたちの進化生物学』による。なお、設問の都合上、小見出しは省略した。）

(注)

- *ダーウイン……イギリスの自然科学者。進化についてすぐれた研究を行った。
- *忌避……きらつて避けること。いやがること。
- *組成……いくつかの要素、成分から組み立てること。
- *類人猿……ヒトに近い霊長類で、テナガザル、オランウータン、ゴリラ、チンパンジーが含まれる。
- *パンデミック……感染症や伝染病が全国的・世界的に大流行すること。
- *太陽光度……太陽が放射するエネルギーの強さを表す単位。
- *自転車操業……なんとかやりくりをして、辛うじて物事を継続している状態のこと。
- *特殊相対性理論……1905年に発表された物理学における画期的な理論。
- *他力本願……ここでは、自分で努力をせずに、ひたすら他人の協力や援助をあてにすること。

問1 傍線部①「私の考えを2つ述べたいと思います」とありますが、その「2つ」とはどのような考えですか。その説明と

して適当なものを、次の中から二つ選び、記号で答えなさい。解答の順序は問いません。

- ア 人間の目的や使命は、ごく単純な物理現象に過ぎないのだという考え。
- イ 人は、他の動物や植物と同じなので自分の由来を考えてはならないという考え。
- ウ 人は、生きていくだけでも安心していられるはずなのだという考え。
- エ 人間に対しては、程度を超えた期待をしないようにすべきだという考え。
- オ 人間の身の回りには、珍しいものが多くあることを知るべきだという考え。
- カ 人は、生きる使命や目的がなくても生きる意味や価値はあるという考え。

問2 傍線部②「『神の子孫』」とはどういう意味ですか。「存在であるという意味。」に続くように本文中から三十五字以内で抜き出し、初めと終わりの五字を書きなさい。

問3 傍線部③「生物のしくみとしては死ぬことはできるだけ忌避するようにできている」とありますが、それは何のためですか。文中の語句を使って具体的に二十字以内で答えなさい。

問4 傍線部④「早計」の意味として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 十分に考えないで下した判断。

イ 自然とわき上がってきた感情。

ウ すぐに答えることができる疑問。

エ 根拠にとぼしい間違った主張。

オ 今の時代には早すぎる革新的な視点。

問5 傍線部⑤「『希少価値』」とありますが、具体的にあげられた例として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 珍しい古銭を取り扱う店。

イ ただ一つしかない形や組成の石ころ。

ウ 地球という惑星の38億年にわたる歴史。

エ 人類による1万年にも及ぶ文明の維持。

オ 地球上で見られるこの1万年の急激な変化。

問6 傍線部⑥「私たち人類はこの宇宙で極めて珍しく、それゆえ価値のある存在です」とありますが、なぜ「この宇宙で極めて珍し」と言えるのですか。最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 私たち人類は、この広い宇宙に唯一存在する生命体として地球上で大躍進したため、全宇宙を支配する神様から特権を与えられるという幸運を得ているから。

イ 私たち人類は、地球上の生物が長い歴史において多様化する中でこの1万年で急速に種を増加させ、さらに他の惑星へと活動を広げようとしているから。

ウ 私たち人類は、地球上で急速に増え発展している種であり、文明を持つ生命体としては広い宇宙の中で今この瞬間に存在する唯一のものである可能性があるから。

エ 私たち人類は、サルなどの他の動物と同じく生きる目的や使命などないはずなのに、その絶望から逃^{のが}れるために生きる目的や使命を探し求めているから。

オ 私たち人類は、社会という組織の中で生きる種であり、この1万年で得た文明を維持してより珍しい社会に変えていくことができる貴重な存在であるから。

問7 空らん部 X、Y に当てはまる適当な漢字をそれぞれ次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 生 イ 老 ウ 病 エ 死 オ 苦

問8 傍線部⑦「懸念材料」の具体的内容として適当でないものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 地球温暖化の進行。
- イ 他の惑星への移住。
- ウ 感染症の流行。
- エ 太陽による環境の変化。
- オ 大災害の発生。

問9 次の会話は、二重傍線部「私たちがもつ希少価値を大切にしていこう」とは、具体的には何をすればいいのでしょうか」について、授業中に生徒が話し合いをしている場面です。空らんにはまる言葉を答えなさい。①と③はそれぞれ十字以上十五字以内で本文から抜き出し、②は三十字以内、④は五十字以内でそれぞれ説明しなさい。

Aさん 本文に「希少価値を大切にしていこう」とあったけれど、具体的に何をすればいいのかな。

Bさん 私たちの文明が減んでしまうと珍しさのない類人猿に戻ってしまうのだから、まずは①する必要があるので

筆者は言っているよね。

Aさん ではそうするには具体的にどうすればいいのかな。

Cさん それは命について考えてみればいいんだと思うよ。

Bさん そうだね。さらによく読んでみると、多くの人との協力関係で社会が成り立っていることも考える必要があるのではないかと思うよ。ということはCさんの言ったことも踏まえて②が必要があるということなのかな。

Cさん さらにもう一つ希少価値を大切にしていこうために大切なことがあると筆者が主張していたよね。

Bさん それは③することだと思うよ。

Aさん では、そうするためにどのようなことが必要なのかな。

Cさん 人の能力の面に注目すると④が必要があると言えらると思うな。

② 慧は恋人の美咲と一緒に映画を観る予定であったが、口論となり美咲は帰ってしまった。これに続く次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。なお、字数制限のある問いは、記号や句読点も字数として数えます。

本気でがんばったことがない。美咲の言ったことは正しい。

腹が立つのはそう言われたことではない。それが、**A** なにか悪いことのように責められたことだ。がんばろうががんばるまいが俺の勝手だろうが。

「やる気を見せてくれよ」

① 上司はいつも慧にそう言う。お前、なんか冷めてるのがかっこいいと思ってるのか？ と呆れ顔を向けられたこともある。美咲と一緒にだ。

要領よく世の中を渡っていきたい。必死にがんばるなんてことはしたくない。そのなにかいけない？

照明が落とされて、予告編がはじまる。さえない女子高生であるわたしに訪れた、学園の人気者の彼との恋、そして悲劇（たぶんそのうちどちらかが難病になる）。アメリカ郊外の平和な町に襲い来る恐怖（殺人鬼）。おとずれた客にちいさな奇跡をもたらす、魔法のレストラン。どれもこれも、どこかで見聞きしたようなありきたりな話ばかり。

B はじまった本編も、似たようなものだった。子どもの頃から「変わり者」で通っていた男にはたぐいまれな数学の才能があることがわかり云々。天才故に、凡人との会話が噛み合わなかったり、敬遠されたりする主人公のことを、なぜかヒロインだけは理解し（もちろん初対面の場面では反発する。その後の心が通じ合う場面がぐっと引き立つように）、献身的に尽くす。

映画に出てくる「天才」は **C** みんな似ているのだろう。② たいいてい髪がぼさぼさか寝癖がついているか、あるいはその両方か。行動が極端なので周囲の人間に誤解されやすいが、じつはピュアで美しい心をもっている、というふう描かれる。

慧の兄は「天才」ではなかった。ただ、おそろしく勉強ができた。でもなにかを暗記したり、山のような問題を解いたり、何時間も机に向かうことが苦にならなかつたりすることは、たしかに一種の才能なのだろう。

「勉強しろなんて言ったことないのよ」

周囲の人に、母はいつもそう語った。なにかの言い訳みたいなのに、ちよつと肩をすくめて。それはほんとうのことだ。たしかに母は「勉強しろ」と兄にも慧にも言ったことがない。

スクリーンの中では天才数学者が一心不乱に数式みたいなものを黒板に書き殴っている。見る人が見ればわかるのかもしれないが、慧にはさっぱりわからない。

「いいのよ、慧くん」

また母が耳元で喋っている。

「勉強だけがすべてじゃないんだから」

テーブルに広げられた期末考査の結果のプリント。薔薇の香り。プリントの脇の皿には、母の手作りの焼き菓子が美しく並べられていた。

どこでつまずいたのかわからない。いつの頃からか、学校の勉強にまるでついていけなくなった。わからないから、授業中**D**ぼんやりしてしまふ。ぼんやりしているから、ますますついていけなくなる。

塾に行きたいと申し出た慧に、両親は「無理しなくていい」とやさしく微笑んだ。「勉強だけがすべてじゃないんだから。ねえ、お父さん」

「そうだぞ、慧。慧は自分に向いていること、自分の好きなことをやったらいいんだ」彼らは口々に慧を元気づけようとした。

「自分の好きなもの。それを追い求めていけば、いつかどこかにたどりつける。何者かになれる。どんな道に進んでも、私たちがお前を応援するよ」

肩に置かれた父の手。がっしりとして温かくて、慧のそれとは骨組みから違う。

たちが悪いのは、とポップコーンをひとつ指でつまんで思う。塩気がきつくて、知らぬ間に唇が歪む。

たちが悪いのは、あのふたりの*鷹揚さだ。人に話せばまちがいがなく「いいご両親じゃない」と感心されてしまふ。できない息子を叱咤するでもなく、そのまま受け入れてくれる父と母。おまけにあの兄。

慧には良いところがいっぱいあると思うよ。このあいだ顔を合わせた時、兄はそんなことを言った。なにやら照れたように目を伏せて。

俺はお前みたいに友だちも多くないし。女の子に気の利いたことも言えないし。ちよつとوراやましかつたりするんだぜ。結局のところ、人生で成功するのは慧みたいなやつなんじゃないかと俺は思ってる。などと告白する兄と黙ってそれを聞いている慧を、ソファーに座っていた両親がにこにこしながら見つめていた。

完璧な家族。愛情深き彼ら。ぐうの音も出ないほどの正しさ。息がつまる。好きなことをやったらいいんだ、なんて。

ポップコーンをつぎつぎと口に押しこみながら、慧は自分が泣いていることに気がついた。涙を啜つたら、斜め前に座っていた女が振り返るのがわかった。映画は今、ちつとも泣くような場面ではない。

好きなものを見つけないならなかった。

特別な者であれ、なにかを追い求める者であれ、という重圧。少年野球にはじまってサッカー、ギター、サーフィン、絵を描くことや読書や映画、いろんなものに「W」を出して、それでも一度も夢中になれたことはない。見つけなければならなかったのに、どうしてもどうしても見つからなかった。

いつのまにか*エンドロールが流れていて、慧は席を立つ。半分以上残っているポップコーンを、ゴミ箱に捨てた。

四十点。一応うまくまとまってるけど、ありがちな話だと思った。ラストも読めたし、新鮮味がない。観る価値無しとは言わないけど、レンタルで充分だったかな。

ロビーの椅子に座り、さつき撮影したポスターの画像とともにSNSに映画の感想をアップする。実際のところ後半ほとんど観ていなかったけれども、この感想はまちがっていないはずだ。ほんとうにおもしろい作品だったら、観客にほかのことを考えさせる間も与えず、その世界に引きずりこんでくれるはずだ。

*「#cinema」というタグをつけた自分の投稿をさかのぼる。二十八点、十五点、いちばん高く、六十点。かつて自分が学校のテストでもらっていた点数に酷似している。このアカウントは、知り合いには教えていない。斜め上から撮影した自撮りのアイコン。顔がはっきりとわからないようにしてあるから、もし誰かに見られても慧だとはわからないだろう。

最初は単純に「この本わたしも読みました」「あの映画よかったですよね」なんてコメントをもらうのが楽しかった。でも、だんだん他人の感想を読むと焦るようになった。自分がさっぱり内容を理解できなかった作品について検証と考察を重ねている*ブログなんかを読むとくやしくてたまらない。

そのうち観たい映画や読みたい本ではなく、あまり知られていないような作品を選ぶようになった。通だね、と言われるような。他人に「これを選ばあなたのアンテナはすごい」と感心されるような作品。

X もふたもない言いかたをすれば、他人からセンスがあると思われるかかった。もちろん大衆受けする作品もチェックするが、手放して「おもしろかった、楽しかった」では、いかにも頭が悪そうでいけない。こいつ浅いな、なんて思われるぐらいならいっそ死にたい。

点数をつけている時だけ実感を得られる。ここにいる、世界と繋がっているという実感。点数をつけられる側からつける側にやつとなれた。

他の映画の上映が終わったらしく、ロビーに人が流れこんできた。甘ったるいキャラメルポップコーンの匂いとさまざまな人間の体臭や香水や柔軟剤の匂いが混じって、知らぬ間に呼吸を止めた。

人ごみの中に柳瀬に似た男を見つけて、思わず立ち上がる。

「柳瀬さん」

大声で名を呼んでみたが、柳瀬はエレベーターのほうに向かっている。

「柳瀬さん」

駆け寄ろうとして、親子連れとぶつかりそうになる。それをよけたら今度は並んで歩いていたカップルのあいだにとびこむようなかっこうになって、数歩よろけた。

Y がもつれてうまくすすめない。エレベーターの扉が開くのが見えた。柳瀬さん、柳瀬さん。何度も呼びかけているのに、振り向きもしない。聞こえていないのか、それとも無視されているのか。

柳瀬さん。柳瀬さん。俺はあんたに訊きたいことがある。

なんで急に消えたんですか、なんてことじゃない。そんなことはどうでもいい。戻^{もど}ってきてくれなんて言う気もない。とにかく立ち止まって、話を聞いてくれ。

柳瀬の後ろ姿がエレベーターに吸いこまれていく。ようやく追いついた慧の目の前で、扉がすつと閉まった。

最上階に*映画館を擁^{よう}するこのビルの階下には書店やレストランがある。柳瀬をのせたエレベーターの階数表示は複数の数字で止まり、だから柳瀬がどのフロアでおりたのか、確証はなかった。

いちかばちか、一階を指した。エスカレーターを駆けおり、外に出て柳瀬の姿をさがした。

あいつか。違^{ちが}う。あれも違^{ちが}う。こいつも違^{ちが}う。見失ったことを認めなくなかった。ぐるぐる周囲をみまわし、路地をのぞきこむ。

いまにも雨が降り出しそうだった。雲が重たげに連なって街を暗くする。六月特有の湿^{しめ}った空気が慧の額に汗^{あせ}をかかせる。

*おくれ毛が首筋にはりつく。ちいさな爪^{つめ}で肌の表面をひつかかれているようなかゆみをおぼえる。不快さに思わず
ちしたら、斜め前を歩いていた女から睨^{にら}みつけられた。

やる気を見せてくれよ。あの時、慧に向かってそう言い放った上司は「柳瀬もそう思うだろ」と同意を求めた。

柳瀬は首を振^ふってかすかに笑った。

「いいんじゃないですか。みんなが同じ人間だったら気持ち悪いし。同じ働きかたをする必要はないでしょ」

その後、定食屋で偶然柳瀬と鉢^{はち}合^あわせた。*相席いいかな、と言われて断れず、向かい合^あって腰^{こし}をおろした。

「柳瀬さんが言ったさつき^⑥のあれって、俺は俺のままで構^{かま}わない、みたいなことですか？」

だとしたらきれい^⑥ごとだ。柳瀬は箸^{はし}をとろうとしていた手をとめて、小さな声を発した。「うん」とも「ううん」とも聞^きこえた。

「どっちですか」

「どっちでもいいよ。そう思いたいならそう思えばいい」

「……柳瀬さんには、あるんですか」

Z 打

「なにが？」

夢、みたいな。生きがい、とか、目標、とか。そんな単語を口にしてている気恥きはずかしさに、つい声こゑが小さくなった。定食屋のざわめきに飲まれる慧けいの声を拾おうと顔を近づけてきた柳瀬からはなんの匂においもせず、そのことにかえって動揺どうようした。無臭むしゆうの人間なんか、この世にいるのか。

「なにがあるって？ ごめん、もう一回言ってくれませんか？」

「……追い求めているもの、です」

驚おどろいたように身を引いた柳瀬が「ははっ」と声を上げた。そうしたら、きれいに整列した白い歯はがのぞいた。

「ないよ、そんなもん」

柳瀬さん。どこにいるんだよ。

柳瀬をさがしもとめているうちに、人の多い通りに出た。黒や茶色の頭、頭、頭、視線を下に向ければ靴くつ、靴、靴、靴、さつき見かけた柳瀬がどんな色の服を着ていたかもう思い出せない。人ごみに充満する柔軟剤の薔薇むらさきの香り。嘔吐むせそうになる。吐はきそうにもなる。薔薇むらさきの匂においはいつだって、慧けいをあの庭に引ひき戻もどす。

そもそもさつきの男がほんとうに柳瀬だったのかも、もう自信がない。でも慧けいは歩くのをやめない。やめられない。いつのまにか走り出していた。

教えてくださいよ、柳瀬さん。

「ないよ、そんなもん」と笑っていた柳瀬。それなのにどうしてそんなふう⑦に、風に吹ふかれて立たっていられるんだ。どっちでもいいよ、なんて笑われたって、わからない。

(寺地てらぢはるな『希望のゆくえ』による。)

(注)

* 鷹揚さ……小さなことにこだわらずゆったりとしている様子。

* エンドロール……映画の終わりに表示される製作者などの一覧。

* 「#cinema」というタグ……ここでは、SNSで映画に関する投稿を発見しやすくするための記号。

* ブログ……ここでは、日記やエッセイをつづる個人のインターネットページ。

* 映画館を擁する……映画館が入っている。

* おくれ毛……髪をセットしたときに残る短い毛。

* 相席……他の客と同じテーブルにつくこと。

問1 空らん部 に当てはまる言葉として適切なものをそれぞれ次の中から選び、記号で答えなさい。

ア つい イ 決して ウ ようやく エ まるで オ どうして

問2 傍線部①「美咲と一緒だ」とありますが、上司は美咲とどんなところが「一緒」なのですか。その説明として最も適当

なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 物事に自ら本気で取り組まないのは、改めるべきよくない性質だと考えているところ。

イ 成り行きにまかせ生きていこうとする言動を、無責任であると思いついていてるところ。

ウ 冷めた姿勢をかくそうともしないのは、周囲に対して失礼だとして腹を立てるところ。

エ 相手が気を悪くすることでも、正しいことなら言ってもよいと勘違いしているところ。

オ がんばることを避けていると、立派な人間になることはできないと決めつけるところ。

問3 傍線部②「たいてい髪がほさほさか寝癖がついているか、あるいはその両方か」とありますが、そのような映画の中の

「天才」たちについてどのようなことがわかりますか。その説明として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア 自然と外見が似てくるということ。
- イ 外見など気にしていないということ。
- ウ 一見して凡人と違うとわかるということ。
- エ 外見と内面が一致していないということ。
- オ ヒロインに関心を持たれることはないということ。

問4 傍線部③「がっしりとして温かくて、慧のそれとは骨組みから違う」とありますが、慧は父と自分との間にどのような

違いがあると考えていますか。その説明として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア 頼もしくおらかな優しさを注ぐ父親と、そんな誠実さなどない自分という違い。
- イ 強い信念を持って人と向き合う父親と、理想とする考えなどない自分という違い。
- ウ 失敗しても叱らずに許してくれる父親と、心の広さなど持たない自分という違い。
- エ まっすぐな愛情を向けてくる力強い父親と、何もできそうにない自分という違い。
- オ 秘めた情熱を伝えてくる父親と、理性的に物事を捉えようとする自分という違い。

問5 傍線部④「ぐうの音も出ない」の文中での意味として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 一言も反論できない。 イ 感情に流されない。 ウ 論理的に完全である。

エ 誰にでも理解できる。 オ 思わず感心してしまう。

問6 傍線部⑤「慧は自分が泣いていることに気がついた」とありますが、この時の慧の説明として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 好きなことを見つけれない自分にも深い愛情を注ぐ家族を重苦しく感じていたが、同時にいつその愛情が自分に注がれなくなるかという不安を感じたことを思い出すとともに、そんな相反する気持ちを抱えている自分を腹立たしく思う気持ちがあふれ出している。

イ いつも愛情深く自分を支えてくれる家族の姿は他者に対しても自慢できるものであるので、過去にいつまでもこだわって前を向けなかった恥ずかしさを思い出すとともに、必ず自分が夢中になれる好きなことを見つけたと思う気持ちがあふれ出している。

ウ 好きなことをやればいいという家族の姿は他者から見ても素晴らしいものであるので、その家族の言葉を退けることができなかつた苦しさを思い出すとともに、好きなことを見つけたこともできない自分を悔しく思う気持ちがあふれ出している。

エ 苦手なものから目を背けさせてくれた家族に感謝する気持ちはあったが、その家族が求めるままサッカーやギターなどに次々挑戦してきた過去を思い出すとともに、すべてに夢中になれなかつた記憶を消してしまいたい気持ちがあふれ出している。

オ 勉強ができない自分を責めない家族に対して疑問に思う気持ちがあつたが、その家族は人から見れば完璧な家族に見えるため何も言わずにいて後悔したことを思い出すとともに、勉強を頑張りたいと言いつけなかつた自分を情けなく思う気持ちがあふれ出している。

問7 空らん部 W Z には体に関する言葉が入ります。当てはまる言葉をそれぞれ漢字一字で答えなさい。

問8 傍線部⑥「きれいごと」の文中での意味として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア 口先だけでまったく実質が伴っていないという意味。
- イ 美しく理想的なものだと感じられるという意味。
- ウ 非の打ちどころのない正論であるという意味。
- エ 批判されないよう完全なものにしようとしているという意味。
- オ 自分の誤りを訂正しようとしているという意味。

問9 傍線部⑦「どうしてそんなふうに、風に吹かれているように立っていられるんだ」とありますが、この時の慧の心情を二重傍線部「点数をつけている時だけ実感を得られる」を踏まえて九十字以内で説明しなさい。

問10 本文の構成や表現の説明として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア 地の文が、主人公の一人称いちにんしょうによって語られている。
- イ 主人公が経験した出来事の時系列に沿って、物語が進んでいる。
- ウ 情景が擬音語ぎおんごの多用によって、いきいきと描かれてえがいる。
- エ 空模様や街の様子が主人公の心情を効果的に表現している。
- オ 困難を乗り越えて成長する主人公の未来が暗示されている。

③ 次の傍線部のカタカナを漢字で書きなさい。

- ① 好きなスポーツのキョウギは野球だ。
- ② その家は木造ケンチクで作られている。
- ③ ケイソウで登山してはいけない。
- ④ 多くの植物がグンセイしている。
- ⑤ ショメイ運動に参加した。
- ⑥ 一つの案をサクテイする。
- ⑦ 正しいものと間違まちがったものをハンベツする。
- ⑧ 犯人のケントウはついた。
- ⑨ 自転車が公園にホウチされている。
- ⑩ カイコが糸をはき出す。

